

世界の主要拠点 (平成27年3月31日現在)

本社 生産拠点 開発拠点 販売・サービス拠点



**Sodick**  
株式会社 ソディック

〒224-8522  
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
TEL: 045-942-3111  
FAX: 045-943-5835  
(証券コード: 6143)

国内

本社	横浜					
営業拠点	仙台 静岡	大宮 名古屋	八王子 大阪	横浜 岡山	福井 福岡	松本
事業所	福井	加賀	白山	宮崎		

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。  
お気軽に下記のお問合せまでお寄せください。

<http://www.sodick.co.jp/contact/index.html>



株式会社 ソディック

東証一部: 6143

第39期

事業報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

Business Report

**Sodick**





# Sodick | Corporate Highlights

## 金属3Dプリンタ リニアモータ駆動 ワンプロセスミーリングセンタ「OPM250L」が 日刊工業新聞社主催 第57回「十大新製品賞」を受賞

金属3Dプリンタ「OPM250L」が、日刊工業新聞社主催の平成26年第57回「十大新製品賞」で「十大新製品賞 本賞」を受賞いたしました。「OPM250L」の開発により、金属3Dプリンタを活用したものづくりの全工程をソディックグループの技術で完結し、一貫した設計コンセプトに基づく製品群を構築できるため、プラスチック成形品の製造現場への、実践的な金属3Dプリンタの普及が可能となることが高く評価され受賞しました。



## 「ソディック東京ショールーム」を開設 金属3Dプリンタによる“ワンストップ・ソリューション”の体験を提供

平成27年1月15日、「ソディック東京ショールーム」を、アクセスに便利なJR東京駅八重洲口の向かい側に開設いたしました。

上記の金属3Dプリンタ「OPM250L」2台の他、ワイヤ放電加工機「SL400G」、V-ライン搭載の射出成形機「GL30」をあわせて展示し、弊社が提唱する“ワンストップ・ソリューション”をお客様に直接ご体験いただけるショールームとなっております。商品の展示だけでなく、お客様がご要望するソリューションのご提供の場として、最新の技術セミナーや各種イベントを開催していく予定です。



CONTENTS	Sodick Corporate Highlights .....	1	当期の業績 .....	7
	株主の皆様へ .....	2	連結財務諸表(要旨) .....	8
	グローバルネットワークとセグメント別概況 .....	3-4	株式情報・会社情報 .....	9
	特集 東証一部上場 これまでの軌跡と今後の戦略 ..	5-6	株主メモ .....	10

## 未来を創る

代表取締役社長 金子 雄二



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、当社は平成27年3月31日に東京証券取引所市場第二部から同市場第一部へ市場変更し、市場第一部へ上場いたしました。これもひとえに株主の皆様方をはじめ、多くの関係者の皆様方からのご支援、ご高配の賜物と心より御礼申し上げます。東証一部上場を一つの通過点とし、今後はソディックブランドの維持・向上のためコーポレート・ガバナンスのさらなる強化に加え、ダイバーシティ経営の推進により、多様な人材の能力を活用し多彩なイノベーションを生み出すことでさらなる発展を目指してまいります。また、グローバルにビジネスを展開していく中で、主力の放電加工機を中心とするソディックグループ独自のコアコンピタンスのさらなる育成を通じ、3年以内に過去最高の売上高を目指します。

さらなる発展に向けた成長ドライバーの一つに次世代の生産技術として注目をあびている金属3Dプリンタ「OPM250L」が

ございます。この金属3Dプリンタは金属粉末をレーザー光で溶融し積層した後、マシニングセンタで仕上げ加工を繰り返すことで、今までの加工機では実現できなかった三次元冷却配管のような複雑な形状を備えた金型作りが可能となります。また当社グループではCAD・CAMから放電加工機、マシニングセンタさらには射出成形機まで、ものづくりの川上から川下まで全工程に対応できるワンストップ・ソリューションを強みとしておりますので、お客様のトラブルにも迅速かつ適切に対応し、新しいものづくりを提案していきます。今後も積極的な営業活動を通して、金属3Dプリンタの業績への貢献が益々拡大していくことを期待しております。

今後とも皆様方のご期待にお応えするべく、当社の経営理念である「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精進してまいりますので、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

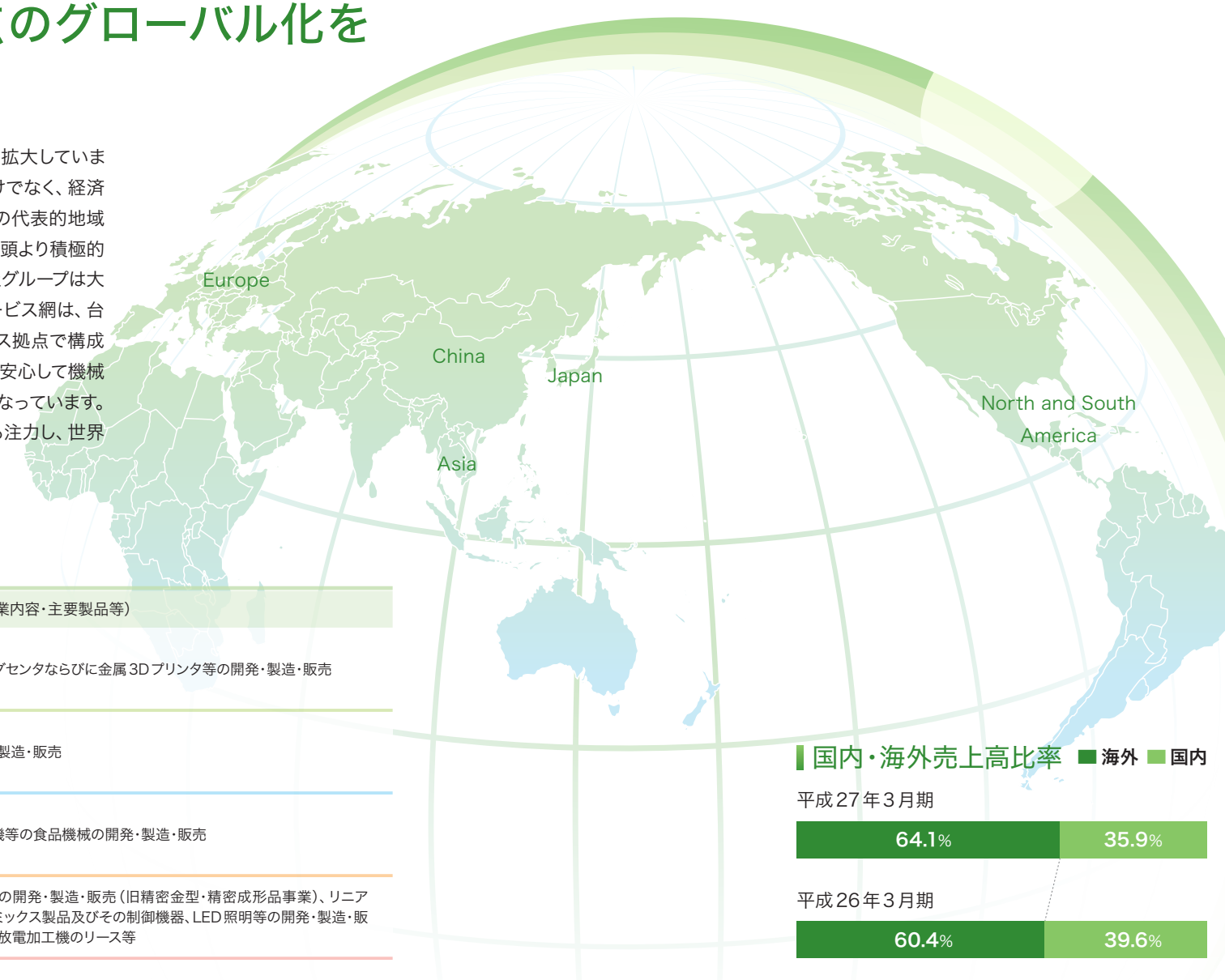
平成27年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、期末配当について1株当たり、普通配当7円及び平成27年3月31日付東京証券取引所第一部上場による記念配当6円の合計13円とし、第2四半期末配当(1株当たり7円)と合わせ、年間配当は1株当たり20円といたします。また、平成28年3月期の第2四半期末及び期末配当はそれぞれ1株当たり9円とし、年間配当は1株当たり18円とする予定です。

# 世界中のものづくりを支えるために、 開発、生産、販売拠点のグローバル化を 促進しています。

グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。当社グループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域で先進工業国となりつつある中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴い当社グループは大きな成果をあげております。同地域における販売・サービス網は、台湾を含めた中華圏に26ヶ所設置された営業・サービス拠点で構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインド、東南アジア及びブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「ものづくり」に一層貢献してまいります。

## セグメント (第38期より変更)

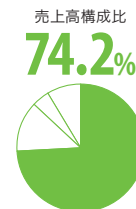
セグメント	セグメントの概要(事業内容・主要製品等)
工作機械事業	放電加工機、マシニングセンタならびに金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売
産業機械事業	射出成形機等の開発・製造・販売
食品機械事業	麺製造プラント、製麺機等の食品機械の開発・製造・販売
その他	プラスチック成形品等の開発・製造・販売(旧精密金型・精密成形品事業)、リニアモータ応用製品・セラミックス製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売(旧要素技術事業)、放電加工機のリース等



## セグメント別概況

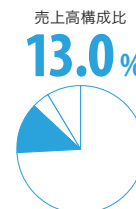
### 工作機械事業

工作機械事業は、主に放電加工機の製造・販売、その保守サービスや消耗品の販売を行っております。工作機械の設備投資需要は、国内においては期初の消費税引き上げ後の落ち込みから持ち直しつつある中、政府による補助金等の設備投資推進策により増加基調にあります。特に自動車及びコネクタ関連を中心に受注が堅調に推移しました。海外市場は、北米地域では引き続き自動車、航空機、医療機器関連からの需要が順調に推移しております。欧州は、ロシア経済の悪化等マイナス要素はあるものの、総じて自動車や航空機分野で好調を維持しています。アジアにおいては、特に中国では成長率の鈍化が懸念されますが、スマートフォンやコネクタ関連で順調な設備投資需要が見られました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比59億47百万円増(14.6%増)の467億83百万円となりました。



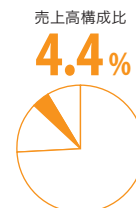
### 産業機械事業

産業機械事業では、国内では引き続き自動車関連やスマートフォン関連で高付加価値部品向け成形機の需要が順調に推移しました。しかし、初期生産コスト高及び、アジア圏などでの低価格機種種の販売増加により、利益率は低下しました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比2億55百万円減(3.0%減)の81億89百万円となりました。



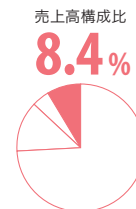
### 食品機械事業

食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。当事業の主要市場である日本国内においては、コンビニエンスストアやスーパーから麺の品質向上のための需要が見られ、海外においても日本食ブームの影響により、特に中華圏において常温保存が可能なロングライフ麺の製造装置の需要が広がっております。しかし今期に見込んでいた一部大型案件における納期延期の影響により、当事業の売上高は前連結会計年度比7億47百万円減(21.1%減)の27億90百万円となりました。

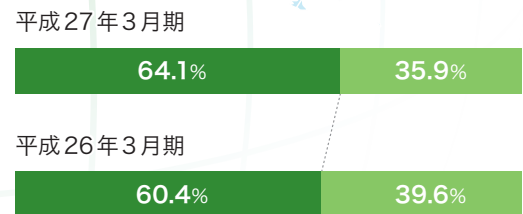


### その他

その他は、精密コネクタなどの受注生産を行う精密金型・精密成形事業、リニアモータやセラミックス部材など独自の技術を活かした製品及びLED照明機器の開発・製造販売を行う要素技術事業、放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。当連結会計年度においては、リニアモータ、セラミックス部材の外販が引き続き好調に推移しました。当事業の売上高は前連結会計年度比12億46百万円増(30.5%増)の53億26百万円となりました。



## 国内・海外売上高比率



SPECIAL FEATURE  
特集

# 東証一部上場 これまでの軌跡と今後の戦略

当社は、創業以来、放電加工制御の研究、NC装置開発などを通して、世界中のものづくりに貢献してまいりました。今後も、自社技術をさらに向上させ、新たな製品群への応用開発を進め、ものづくりを通して社会に貢献してまいります。

## コアとなる強みを活かした 既存・新規ビジネスの拡大

# 2000 2015

2015.3.31  
東証1部上場

### 更なる未来へ

1976

#### 創世期

##### 創業



創業者 古川利彦

##### 放電加工機の発展

世界にさきがけて「マイクロ・コンピュータ付きNC形彫り放電加工機第1号」を開発



「MD5B」

1980

#### 躍進期

- 新技術開発ラッシュで顧客のものづくりを支える
  - ・新回路電源「PIKA-1」
  - ・放電加工用高性能特殊加工液「VITOL」
  - ・NC4軸プラス回転主軸を持った放電加工機



NC形彫り放電加工機「A3C-R」

1986.2  
東証2部上場

1988

#### 海外展開期

- 産業機械事業への進出



射出成形機「TR50S2」

- 開発、生産、販売拠点のグローバル化を促進



世界市場を日本・中国・アジア(中国を除く)・北南米・欧州の5つのエリアに分け、エリアごとの市場動向を見据えた生産・販売体制を構築

1989

#### 発展期

- 食品機械事業への進出



製麺機「DDM」

2007

- リニアモータ技術の革新

・高速・高精度・高応答性を可能とするリニアモータ技術

・NC装置からの指令に基づきリニアモータの高速・高精度な動作をコントロールするための「SMC(ソディック)モーションコントロール」



リニアモーター駆動高速形彫り放電加工機「AG35L」



- 金属3Dプリンタの開発

未来のものづくりに、夢と希望を創造する金属3Dプリンタを開発



金属3Dプリンタ「OPM250L」

## 未来のものづくりに、 夢と希望を創造します。

当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税増税後に落ち込みが見られましたが、政府による経済政策等の影響により緩やかな回復基調にあります。世界経済においては、米国経済は雇用環境の改善等により堅調に推移しましたが、欧州は国ごとに濃淡があり、ロシア・ウクライナ情勢の影響から依然として景気回復は緩慢な状況にあります。また、中国は俟約令による個人消費の落ち込み等もあり景気はやや減速傾向にあります。

工作機械業界につきましては、国内では政府の補助金等の影響により企業の設備投資マインドは回復に向かっています。海外でも北米での自動車関連の需要や中国でのスマートフォン向けの需要が好調に推移しました。当社グループにおいても、国内では自動車関連やコネクタ関連からの需要が堅調に推移しました。また、北米や欧州での自動車、航空機、医療機器分野の受注が引き続き好調で、中華圏においてもスマートフォン関連の受注が順調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは9月に米国シカゴにおいて開催されたIMTS2014や10月に東京で開催されたJIMTOF2014など国際的な工作機械見本市に、放電加工機をはじめとする多様な製品を出展し、積極的な営業活動を行いました。JIMTOF2014においては、近年注目を集めている金属3Dプリンタ「OPM250L」を初披露致しました。この金属3Dプリンタは金属粉末をレーザー光で溶融し積層した後、マシニングセンタで仕上げ加工を繰り返すことで、今までの加工機では実現できなかった三次元冷却配管のような複雑な形状を備えた金型作りが可能となります。さらに当社グループではCAD・CAMから放電加工機、マシニングセンタさらには射出成形機まで、全工程に対応できるワンストップ・ソリューションにより、お客様のトラブルにも迅速かつ適切に対応し、新しいものづくりを提案していきます。また、平成27年1月に福井のサービスビューロを開設し、お客様から

の受託加工を行っております。また、東京ショールームを開設し、実際にお客様に金属3Dプリンタをもちいた最新のものづくりを体験できる場を設けています。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比61億90百万円増(10.9%増)の63億90百万円となりました。また利益面では、営業利益は前年同期比22億40百万円増(84.5%増)の48億91百万円、経常利益は前年同期比17億61百万円増(45.3%増)の56億47百万円、当期純利益は前年同期比6億44百万円減(15.4%減)の35億50百万円となりました。

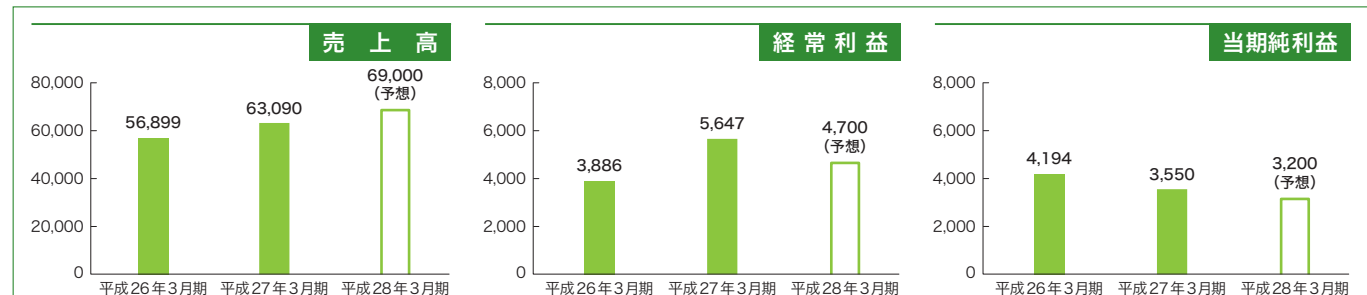
次期の見通し

今後のわが国経済の見通しにつきましては、個人消費は力強さに欠けますが、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調を維持するものと見込まれます。世界経済につきましては、緩やかな回復が続くと見込まれます。米国経済はドル高や原油安が当面の懸念材料となりますが、今後も雇用・所得の改善を背景に景気の回復が継続するものと思われま。欧州経済はユーロ安を背景とする輸出拡大が支えとなり、緩やかな回復が続くと想定されます。中国経済は財政・金融政策の下支えにより景気後退は回避されますが、これまでの高度成長から安定成長への転換が見込まれます。このような経済情勢の下、工作機械の市況は米国、欧州、アジアの主要な地域で回復基調が継続し、今後も堅調に推移すると見込まれます。国内でも更新需要により、堅調な設備投資が続くものと思われま。

平成28年3月期の当社グループの業績は、売上高690億円(前期比9.4%増)、営業利益51億円(前期比4.3%増)、経常利益47億円(前期比16.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益32億円(前期比9.9%減)と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート119円、対ユーロ期中平均レートは134円です。

連結業績ハイライト (単位:百万円)



連結貸借対照表

科目	期別 前期(38期) 平成26年3月31日 現在	当期(39期) 平成27年3月31日 現在
資産の部		
流動資産	64,557	71,362
固定資産	34,218	32,804
有形固定資産	24,450	24,828
無形固定資産	4,346	3,707
投資その他の資産	5,421	4,268
資産合計	98,776	104,167
負債の部		
流動負債	29,779	34,537
固定負債	26,544	20,176
負債合計	56,324	54,713
純資産の部		
株主資本	38,673	41,462
資本金	20,775	20,775
資本剰余金	5,879	5,879
利益剰余金	13,714	16,503
自己株式	△ 1,695	△ 1,696
その他の包括利益累計額	3,714	7,923
少数株主持分	63	67
純資産合計	42,451	49,453
負債純資産合計	98,776	104,167

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

科目	期別 前期(38期) 平成25年4月1日~ 平成26年3月31日まで	当期(39期) 平成26年4月1日~ 平成27年3月31日まで
売上高	56,899	63,090
売上総利益	16,667	20,874
営業利益	2,651	4,891
経常利益	3,886	5,647
税金等調整前当期純利益	3,857	5,129
当期純利益	4,194	3,550
包括利益	7,541	7,763

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 前期(38期) 平成25年4月1日~ 平成26年3月31日まで	当期(39期) 平成26年4月1日~ 平成27年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,577	8,298
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,181	△ 144
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,696	△ 5,243
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	839
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,293	3,748
現金及び現金同等物の期首残高	25,514	23,647
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	425	—
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 0	—
現金及び現金同等物の期末残高	23,647	27,396

## 株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	21,598人

## 大株主

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,114,393	5.82
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,271,100	2.37
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社ティ・エフ	1,150,000	2.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,122,200	2.10
日本証券金融株式会社	1,086,000	2.03
ソディック共栄持株会	977,500	1.82
株式会社SBI証券	904,400	1.69
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
鈴木 正昭	742,260	1.38

## 会社概要

会社名: 株式会社ソディック  
所在地: 本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)

設立: 昭和51年8月3日

資本金: 207億7,575万6,958円

代表者: 金子 雄二

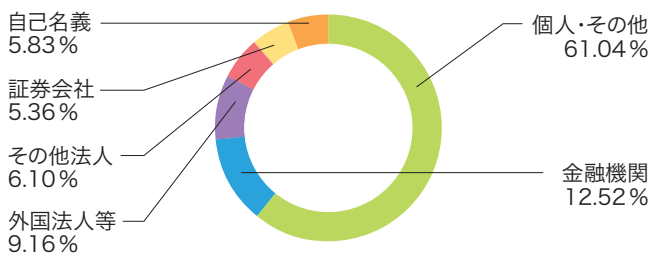
従業員数: 622人(連結3,183人)

連結子会社: 22社

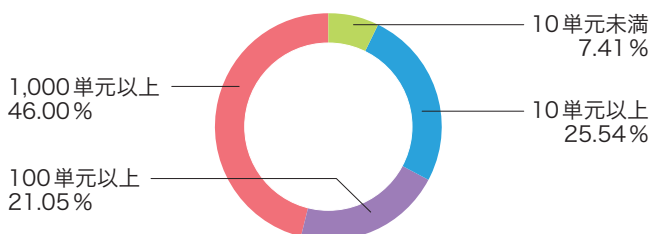
営業品目:

形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/金属3Dプリンタ/ハイスピードミリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

## 所有者別株式分布状況



## 所有株式数別株式分布状況



## 役員 (平成27年6月26日現在)

代表取締役会長  
代表取締役社長  
代表取締役副社長

専務取締役(上席執行役員)  
専務取締役(上席執行役員)  
専務取締役(上席執行役員)  
専務取締役(上席執行役員)  
専務取締役(上席執行役員)  
専務取締役(上席執行役員)

社外取締役  
社外取締役  
常勤監査役  
常勤監査役  
監査役  
監査役  
監査役

※東京証券取引所の定める独立役員であります。

古川 利彦  
金子 雄二  
古川 健一  
高木 圭介  
松井 孝  
藤川 操  
佐野 定男  
大迫 健一  
前島 裕史  
塚本 英樹  
津上 健一※  
栗原 俊明※  
保坂 昭夫  
渡貫 雄一  
長嶋 隆※  
下山 和人  
奥山 富夫

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.sodick.co.jp/ir-f.html">http://www.sodick.co.jp/ir-f.html</a> ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

### 【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお取り扱いいたします。

## 【株式に関するお手続きについて】

### ○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

### ○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufig.jp/daikou/">http://www.tr.mufig.jp/daikou/</a>
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

(※) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

## 単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

### 1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

### 2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。